

2014年9月20日

日本産科婦人科学会  
第7回 産婦人科動向意識調査  
2014年8月調査

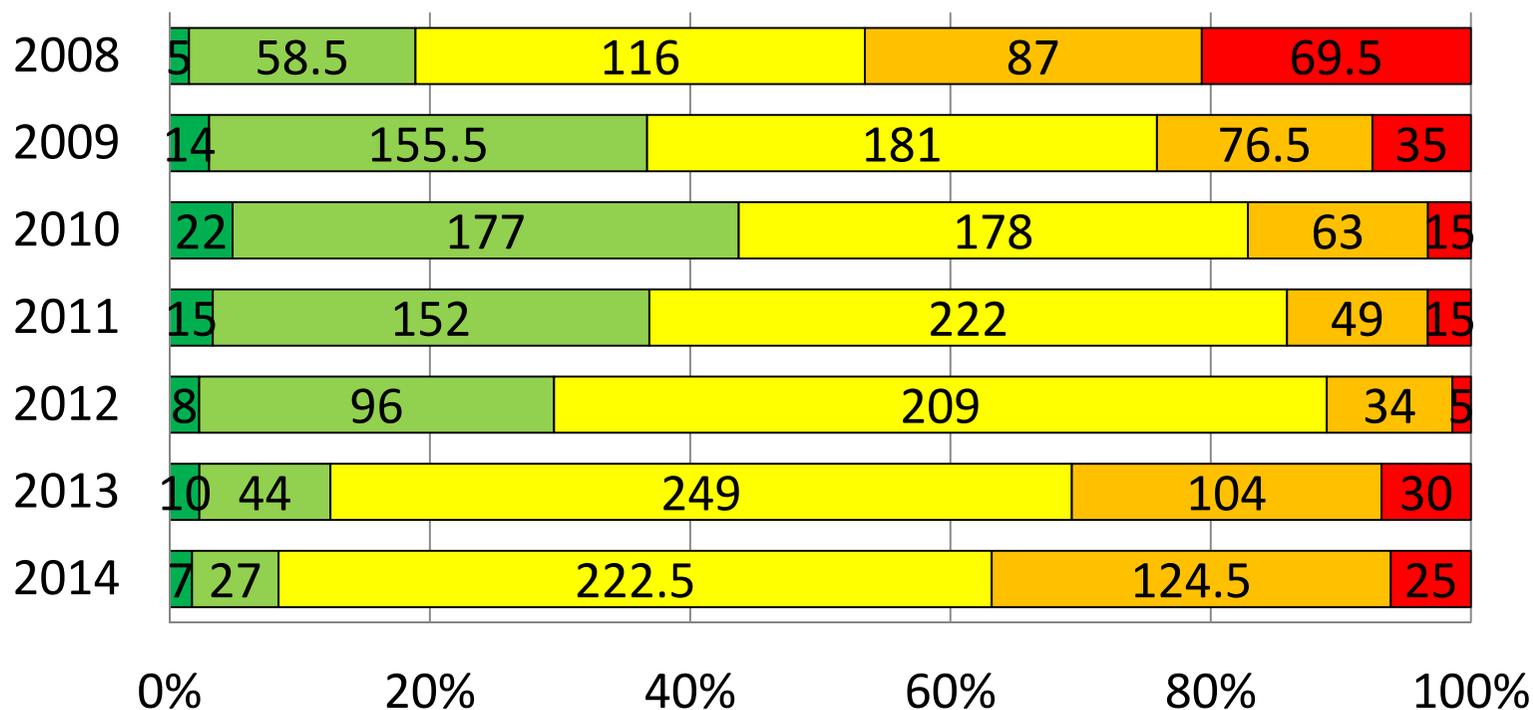
日本産科婦人科学会  
医療改革委員会

日本産科婦人科学会 産婦人科動向 意識調査  
調査結果

	調査対象施設数 (専攻医指導施設)	回答数	回答率
2008年	756	332	44%
2009年	742	462	62%
2010年	744	458	62%
2011年	726	456	62%
2012年	723	349	48%
2013年	666	442	66%
2014年	667	406	61%

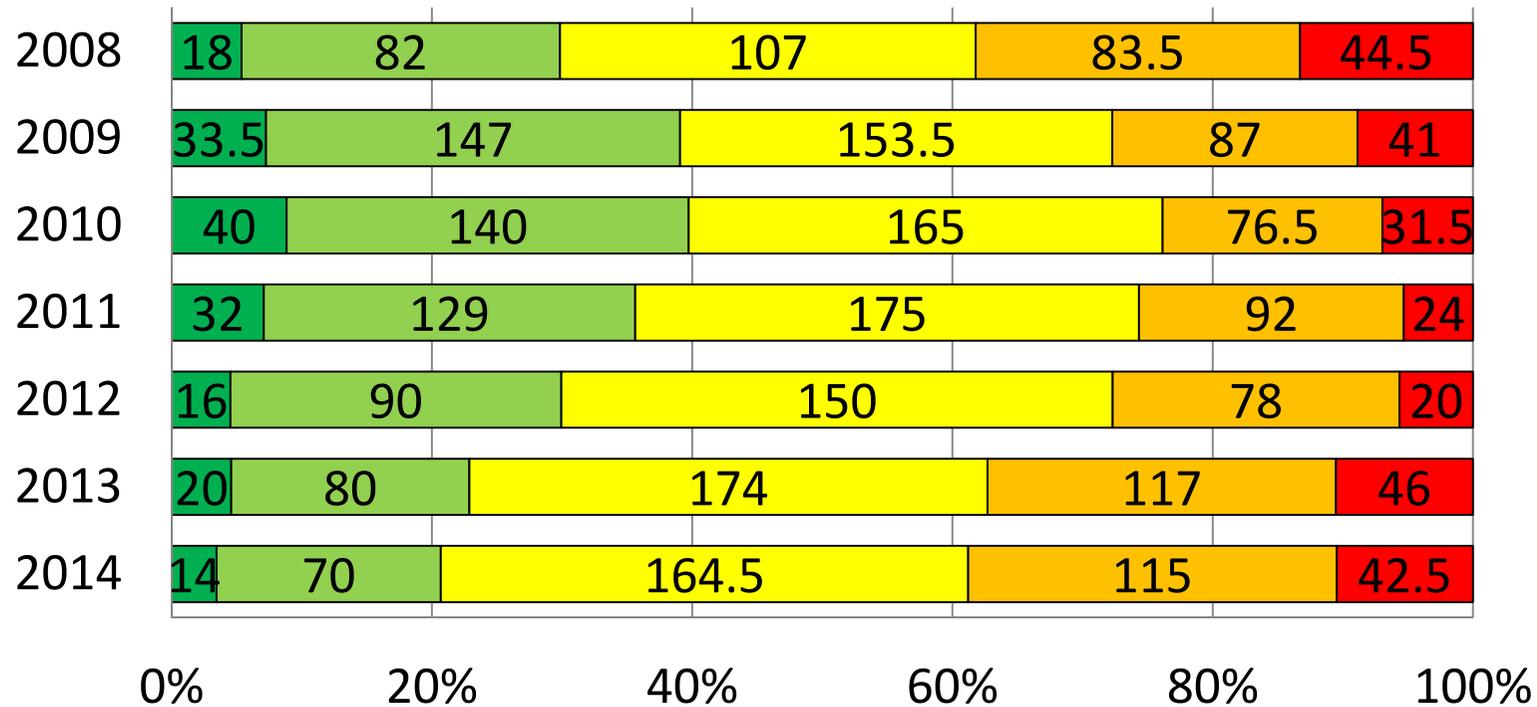
# 日本産科婦人科学会 産婦人科動向 意識調査 「1年前と比較して、全体としての産婦人科の状況」

- 良くなっている
- 少し良くなっている
- 変わらない
- 少し悪くなっている
- 悪くなっている



# 日本産科婦人科学会 産婦人科動向 意識調査 「1年前と比較して、自施設産婦人科の状況」

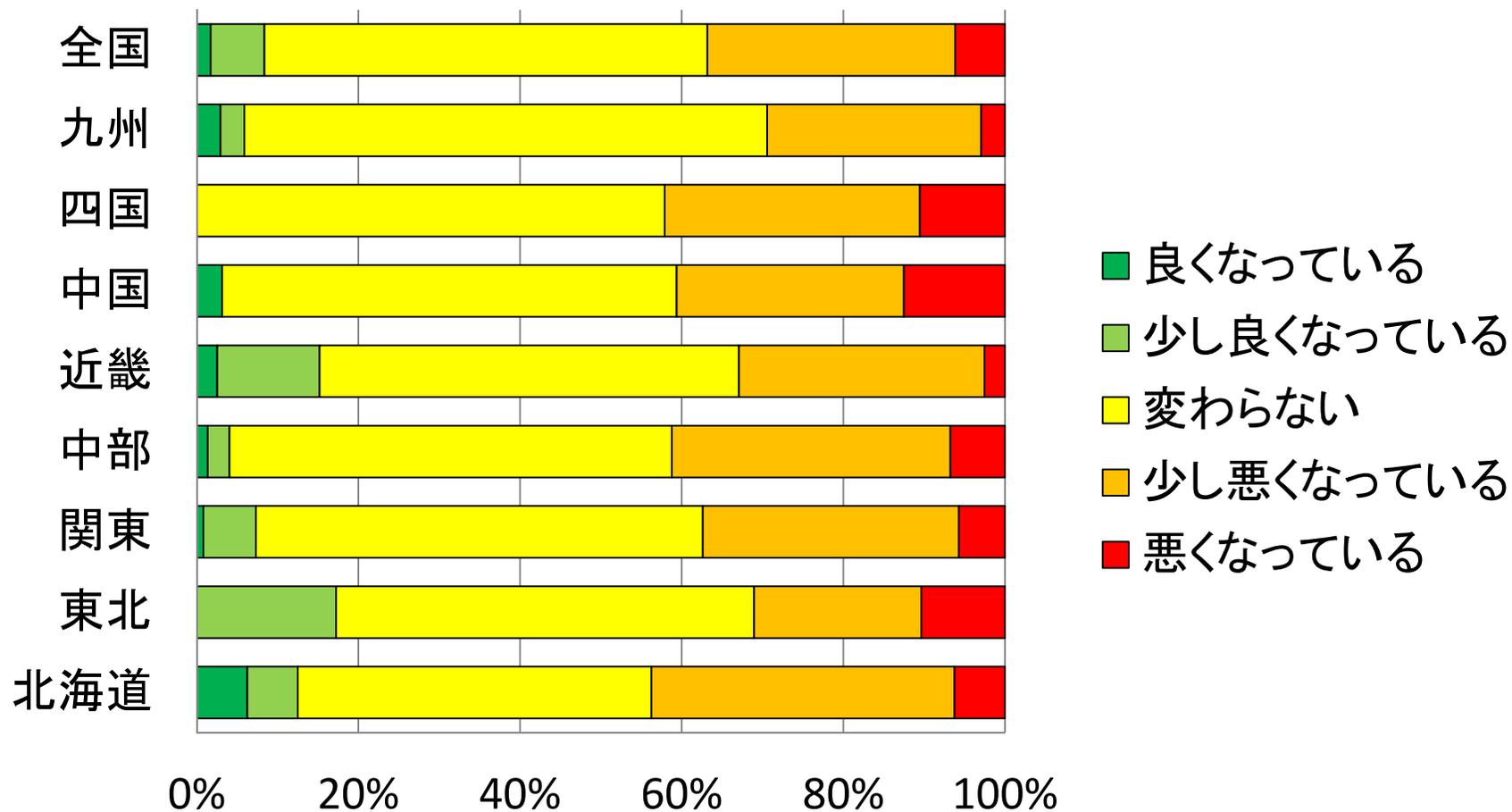
- 良くなっている
- 少し良くなっている
- 変わらない
- 少し悪くなっている
- 悪くなっている



日本産科婦人科学会 第7回産婦人科動向 意識調査

# 「産婦人科の状況に関する意識」

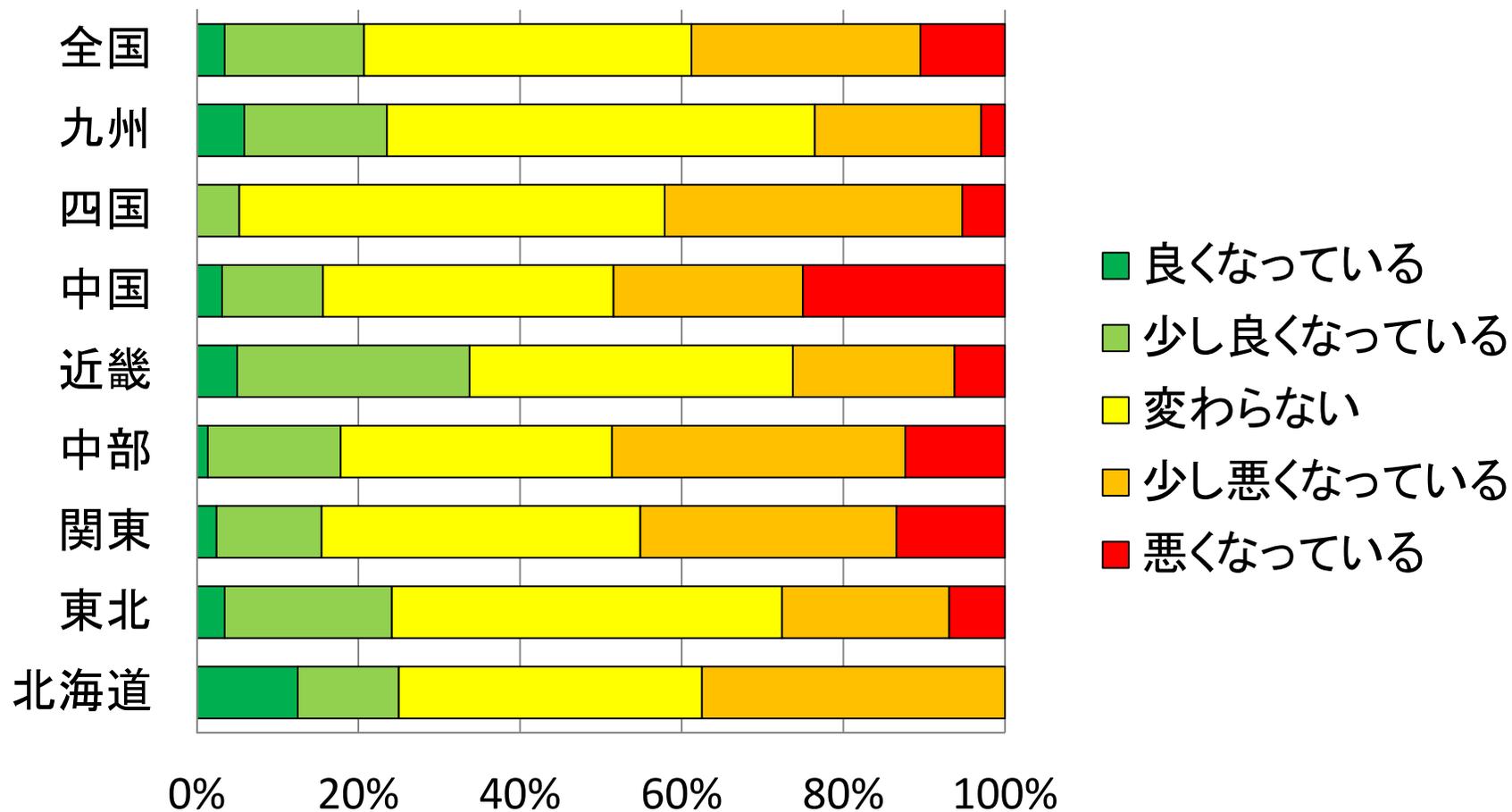
## 動向指数 地域別 全体としての産婦人科の動向



日本産科婦人科学会 第7回産婦人科動向 意識調査

# 「産婦人科の状況に関する意識」

## 動向指数 地域別 自施設の産婦人科の動向

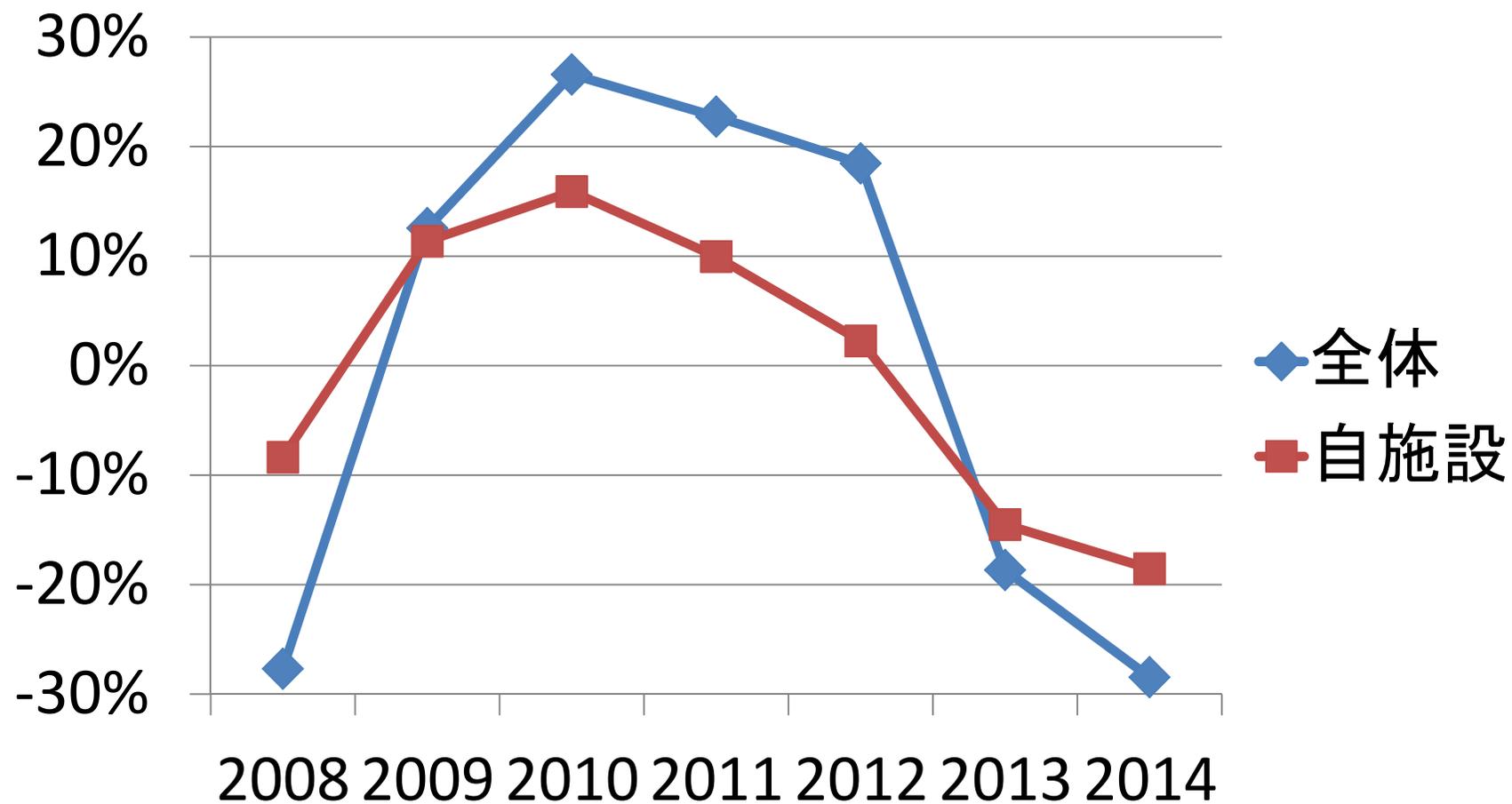


# 動向指数の計算

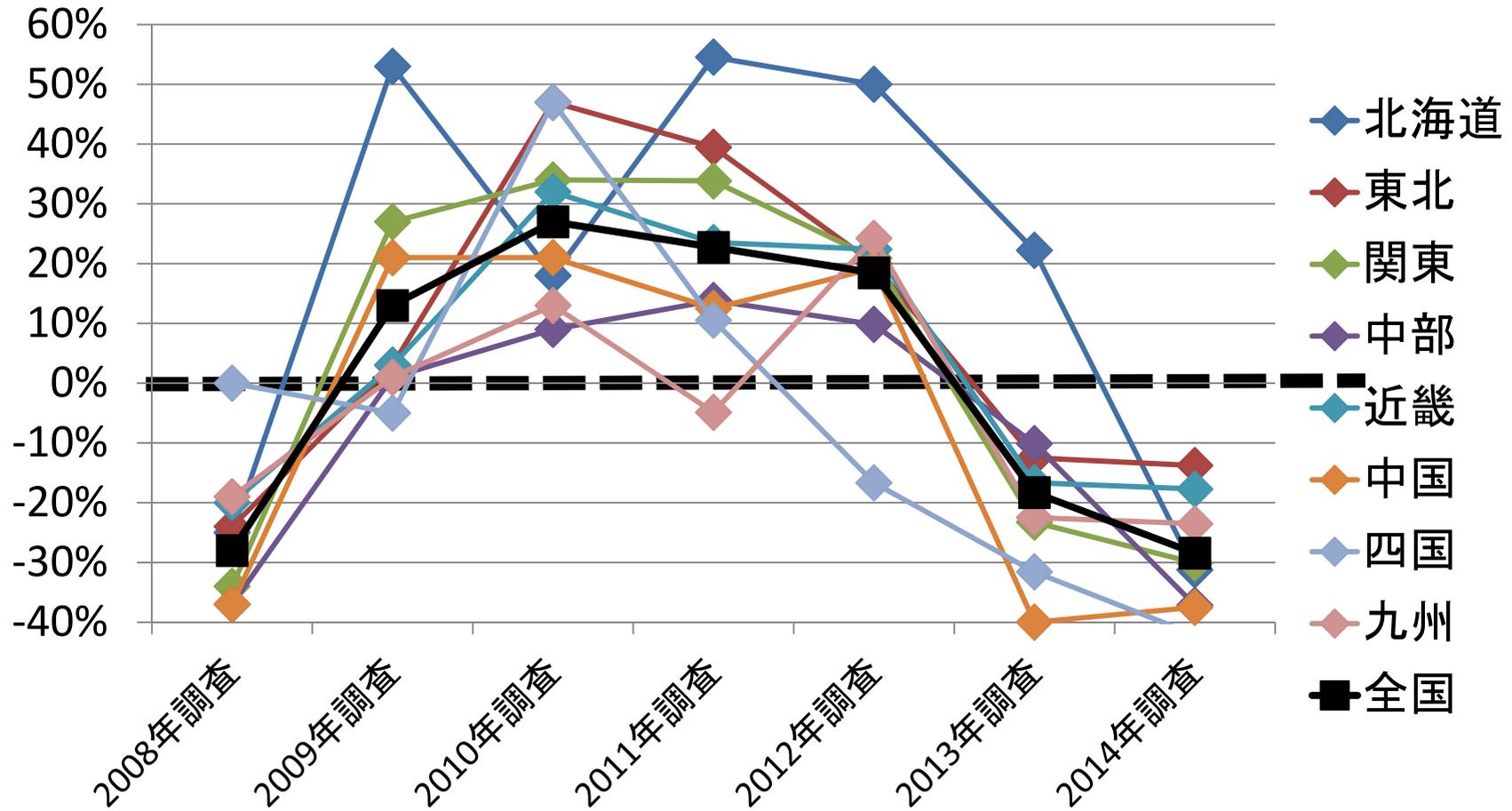
- 全国および各地域における「全体」と「自施設」に関する回答について以下の方法で**動向指数**を計算した。

【(良くなっている+少し良くなっている)－(悪くなっている+少し悪くなっている)】／全体の回答数

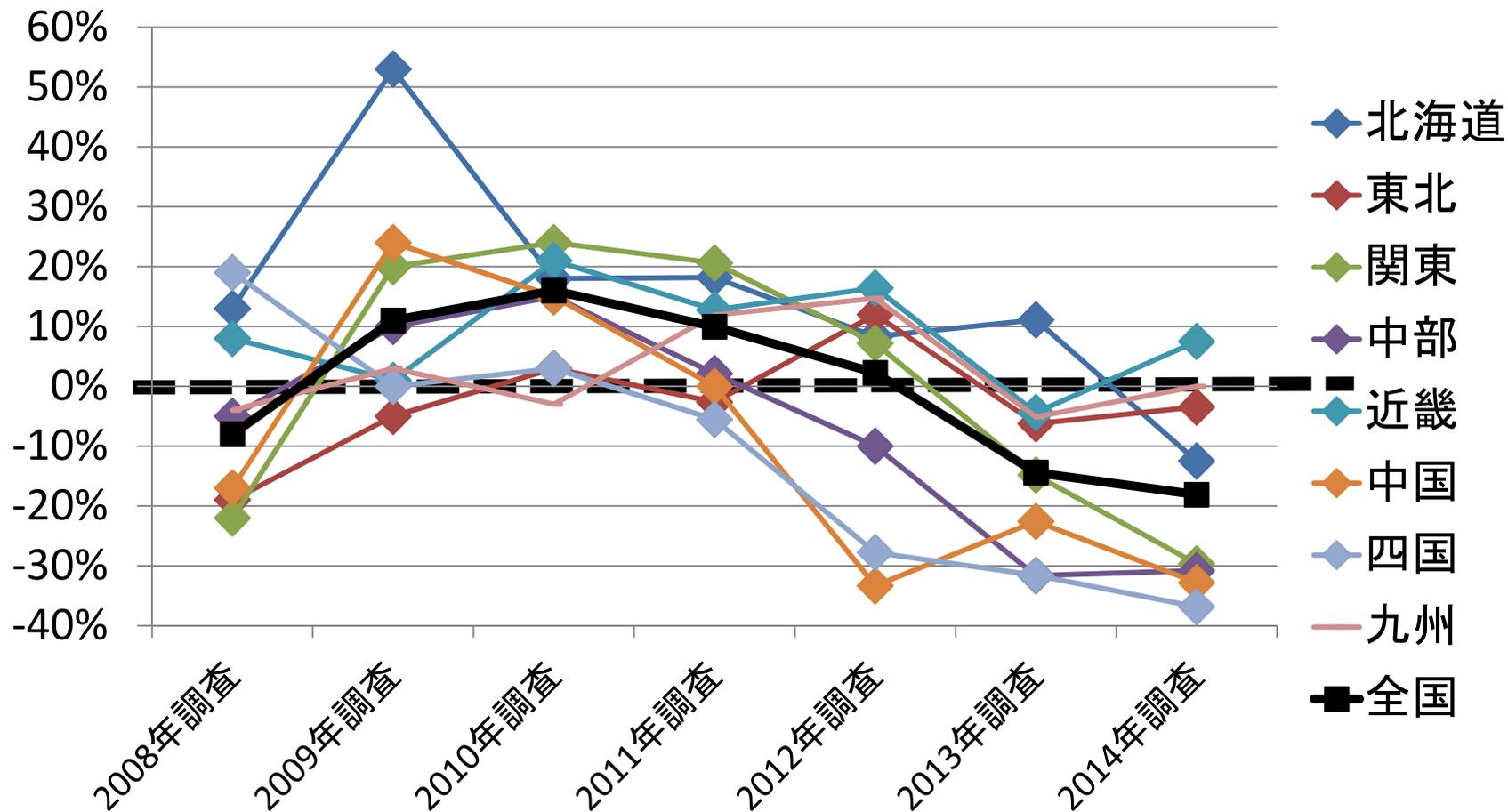
日本産科婦人科学会 産婦人科動向 意識調査  
「産婦人科の状況に関する意識」  
動向指数の変化



日本産科婦人科学会 産婦人科動向 意識調査  
「産婦人科の状況に関する意識」  
動向指数の変化 地域別 全体としての産婦人科の動向



日本産科婦人科学会 産婦人科動向 意識調査  
 「産婦人科の状況に関する意識」  
 動向指数の変化 地域別 自施設の産婦人科の動向



2014年8月 日本産科婦人科学会  
 第7回 産婦人科動向 意識調査  
 全体としての産婦人科の状況  
 回答の理由(複数回答)

悪くなっていると感じる理由

- |     |                      |    |
|-----|----------------------|----|
| 1.  | 産婦人科新規専攻医減           | 35 |
| 2.  | 産婦人科医師数減             | 24 |
| 3.  | 地域格差拡大               | 13 |
| 4.  | 分娩施設減                | 12 |
| 5.  | 女性医師の出産育児等への対応困難     | 12 |
| 6.  | 診療報酬改定(特に帝王切開点数減)    | 11 |
| 7.  | 初期研修必修科からの除外・志望者減    | 9  |
| 8.  | 若手産婦人科医の厳しい労働環境回避の傾向 | 8  |
| 9.  | 常勤医減少・非常勤医増加         | 7  |
| 10. | 業務の増加                | 6  |
| 11. | 女性医師の増加・男性医師の減少      | 5  |
| 12. | 分娩手当廃止・待遇悪化・待遇改善のなさ  | 4  |

良くなっていると感じる理由

- |    |             |    |
|----|-------------|----|
| 1. | 人員増         | 14 |
| 2. | 学会の取り組みを評価  | 5  |
| 3. | 地域医療システムの改善 | 3  |
| 4. | 社会の評価・行政の対応 | 3  |
| 5. | 診療ガイドラインを評価 | 2  |

2014年8月 日本産科婦人科学会  
 第7回 産婦人科動向 意識調査  
 自施設産婦人科の状況  
 回答の理由(複数回答)

悪くなっていると感じる理由

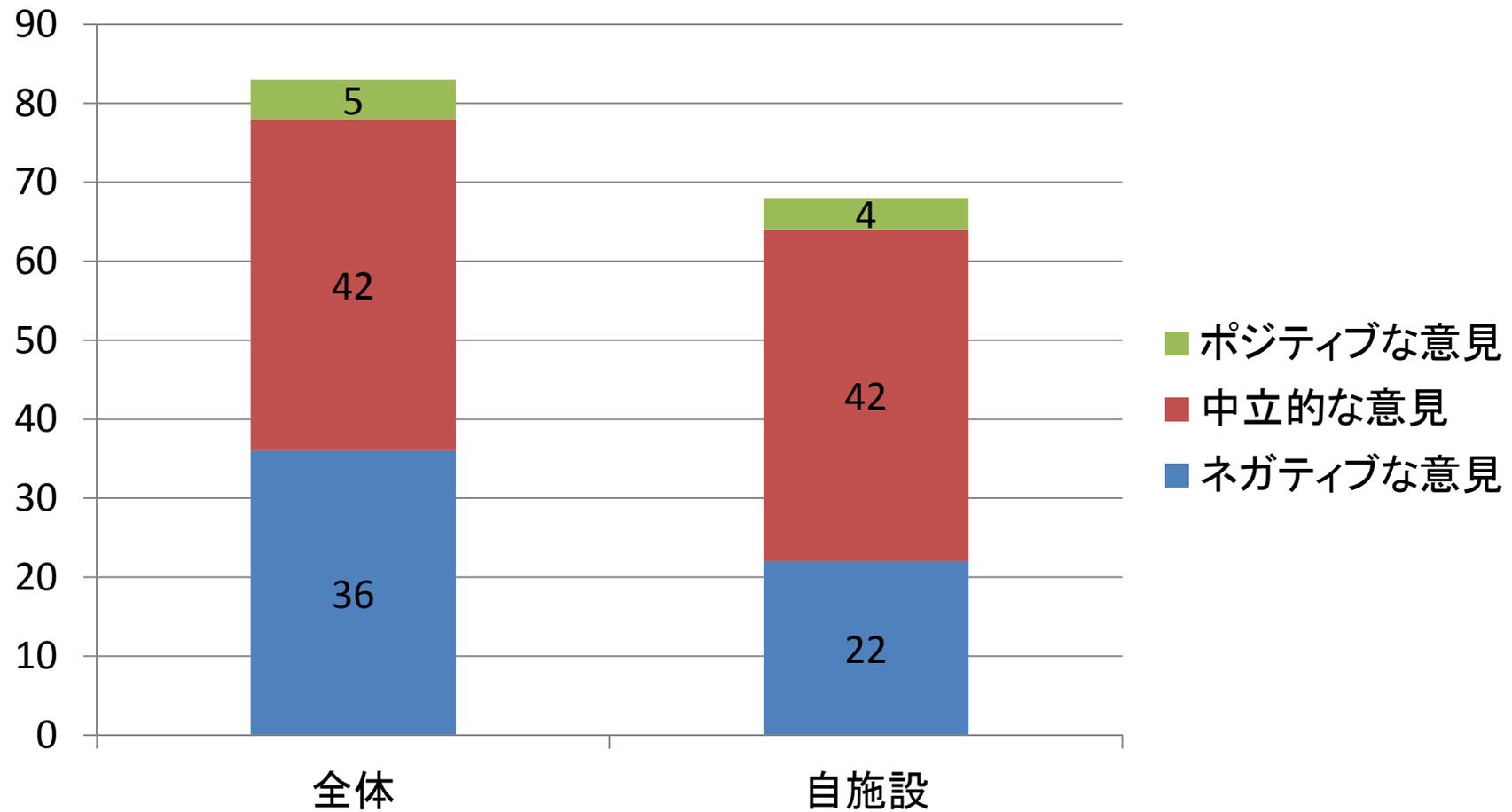
- |     |                      |    |
|-----|----------------------|----|
| 1.  | 産婦人科医減少・未充足          | 73 |
| 2.  | 業務負担増                | 20 |
| 3.  | 女性医師(産休・育休を含む)への対応困難 | 17 |
| 4.  | 産婦人科新規専攻医の減少         | 14 |
| 5.  | 中堅層の減少               | 8  |
| 6.  | 周辺施設、診療所閉院           | 8  |
| 7.  | 患者数減                 | 7  |
| 8.  | 医師の高齢化               | 5  |
| 9.  | 病院の産婦人科に対する低評価       | 5  |
| 10. | 研修医の中での産婦人科志望者の減少    | 4  |
| 11. | 待遇悪化・分娩手当の廃止         | 4  |
| 12. | 当直対応困難               | 4  |
| 13. | 助産師不足                | 3  |

良くなっていると感じる理由

- |     |              |    |
|-----|--------------|----|
| 1.  | 産婦人科医師増員・充足  | 54 |
| 2.  | 診療の質の向上      | 8  |
| 3.  | 病院内の評価向上     | 3  |
| 4.  | 業務の合理化・効率化   | 3  |
| 5.  | 研修医の産婦人科志望増加 | 3  |
| 6.  | 非常勤医確保       | 3  |
| 7.  | 女性医師の復帰      | 2  |
| 8.  | 労働環境の改善      | 2  |
| 9.  | 医師の若返り       | 2  |
| 10. | 待遇の改善        | 2  |

# 第7回調査

## 「変わらない」と回答した理由



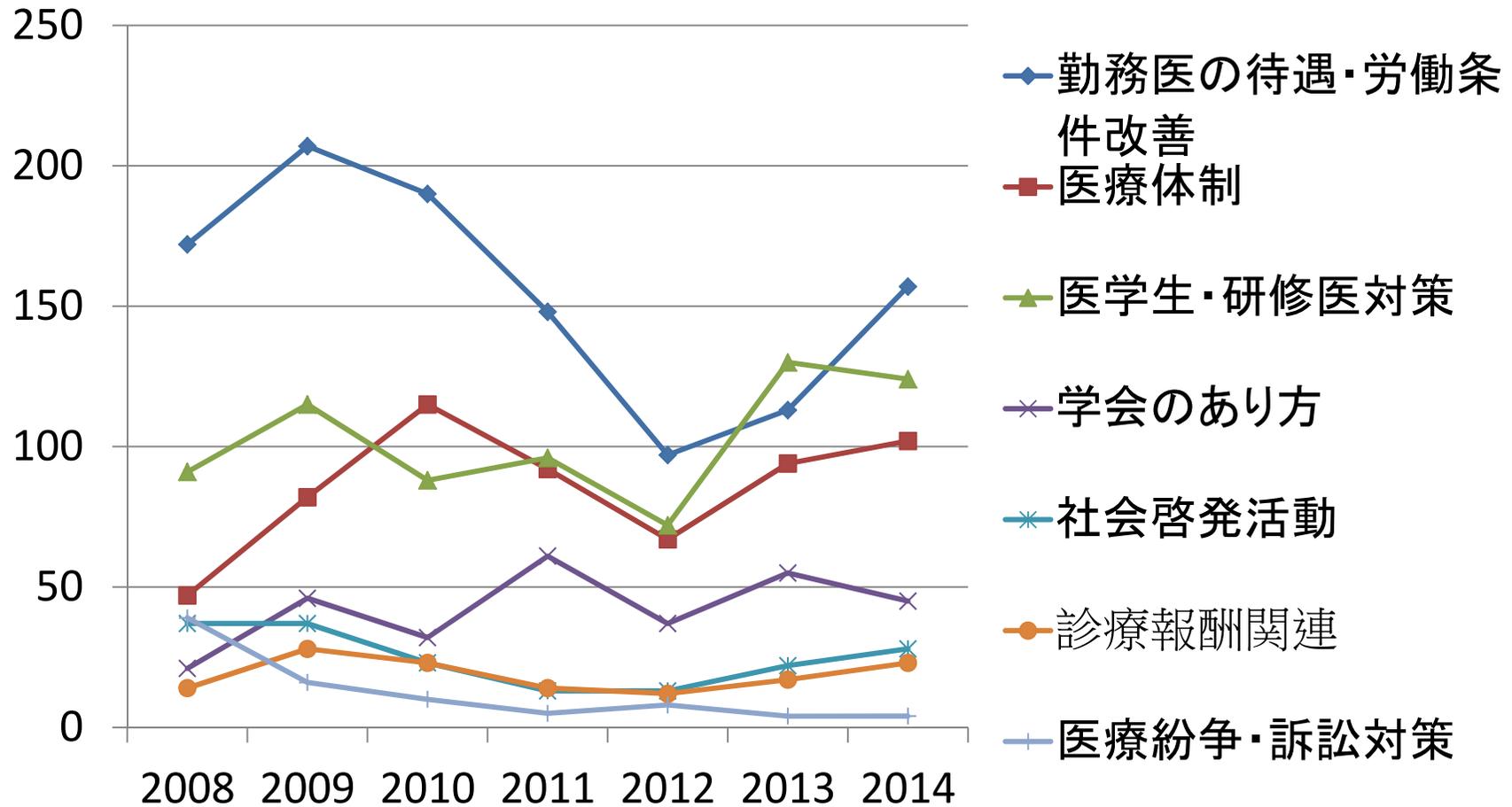
日本産科婦人科学会 産婦人科動向 意識調査

第7回 産婦人科動向 意識調査

学会として優先的に取り組むべき課題 上位の10項目

1	産婦人科医をふやす努力	80
2	女性医師の勤務環境整備	47
3	地域偏在対策	33
4	勤務医の待遇改善	27
5	勤務医の労働条件改善	22
6	分娩施設・病院の集約化・定員増	18
7	男性医師を増やす方策	16
8	女性医師キャリアアッププログラム等復帰促進策	14
9	初期研修における産婦人科の必修科復帰	13
10	産休・育休対策	11
10	マスコミ・世間への産婦人科のアピール	11

日本産科婦人科学会 産婦人科動向 意識調査  
学会として優先的に取り組むべき課題



# 日本産科婦人科学会

## 第7回 産婦人科動向意識調査

### 調査結果のまとめと考察

- 第一線の産婦人科医の産婦人科の現状についての認識は、2010年をピークとして、4年連続で悪化し、調査を開始した2008年のレベル以下に転落した。現場の士気はきわめて低下している。
- その理由としては、産婦人科新規専攻医の減少、産婦人科医の不足、地域格差の拡大があげられている。これは産婦人科新規専攻医の増加が2010年まで続いた後、減少に転じていること、そして増加した医師の多くが大都市圏に集中していると関係している。
- 「悪化の理由」として、特徴的だったのは、今回の初期臨床研修制度の見直しにおける産婦人科の必修科からの除外の継続、平成26年度診療報酬改定における帝王切開点数の大幅減点という、産婦人科医療危機が報じられて以来はじめて、産婦人科再建に逆行する政策が現場の産婦人科医に、非常に強く影響していることである。
- 具体的な優先課題としては、これまでの調査同様、産婦人科医をふやす努力、女性医師の勤務環境整備、地域偏在対策、勤務医の待遇改善、勤務医の労働条件改善が上位を占めた。
- そのなかで、既に現場の多数派となっている女性医師の、常勤を継続することの重要性、産休・育休取得時の対策や復帰促進策等、より現実的、具体的な課題を挙げる意見が目立っていた。